

令和元年度 小林市立野尻中学校 学校関係者評価書

【学校の教育目標】

未来を生き抜くための確かな学力、豊かな心、  
たくましいからだをもった子どもの育成

【学校経営ビジョン】

「自立と自律」「感謝」「貢献」をスローガンに、学校・家庭・地域が一体とな  
って活力ある教育活動を推進することにより、学校教育目標の具現化を図り、  
信頼される学校づくりに努める。

《評価：4段階評価》

- 4 期待以上
- 3 ほぼ期待どおり
- 2 やや期待を下回る
- 1 改善を要する

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	結果の考察・分析及び改善策等	自己評価	関係者評価	学校関係者評価のコメント
知育	<p>○<b>確かな学力の向上</b></p> <p>① 相互参観授業の積極的な実施を行い、Web学習、ICTの有効活用を図る。(年2回の研究授業、Web学習、ICT活用100%)</p> <p>② 生徒指導の三機能を生かした授業を行い、学習規律の徹底を図る。</p> <p>③ キャリア教育の充実を図り、将来を見据えた主体的学習態度の育成を図る。(学びたい度55%)</p> <p>④ 英語の苦手意識を払拭し、英検取得率を高める。(1年5級以上50%、2年4級以上40%、3年3級以上30%)</p>	<p>○ 研究主題『「わかった!」「できた!」と学ぶ喜びを味わえる児童生徒の育成』のもと、小学校2校と連携しながら自分の思いや考えを表現できる授業づくりに焦点化を図り全職員で取り組むことができた。</p> <p>○ 生徒指導の三機能(自己決定・自己存在感・共感的人間関係)を生かした授業づくりについては、話し合いの場や書く活動を通して高められるように仕組みを作った。学習規律では、立腰指導や集中力の持続に課題が見られるので継続して徹底を図る必要がある。</p> <p>○ キャリア教育の充実を図るために、地域の方々に協力を依頼し、調べ学習に加えて体験活動を多く取り入れることで、将来の夢や目標について考える良い機会が設定できた。(学びたい度57.6%)</p> <p>○ 英検を延92人が受験し、合格率は70.7%であった。(1年5級以上77.3%、2年4級以上18.4%、3年3級以上17.9%)</p>	①3.2 ②3.2 ③3.0 ④2.8	3	<p>・小中一貫教育の中で「わかった!」「できた!」と学ぶ喜びを実感できる児童生徒を増やすために、研修や授業改善に取り組まれている。引き続き小学校と連携しながら進めていただきたい。</p> <p>・アンケートの結果より生徒は授業がわかりやすいと答えている生徒がほとんどである。物事を覚える第一歩は好きになることでもあるので、苦手意識の高い教科についても継続してほしい。</p> <p>・授業の集中力を高めるためのメリハリ、立腰指導などの学習規律など、徹底をしていただきたい。</p> <p>・地域人材を活用したキャリア教育は、本物と触れ合う良い機会であり、夢や希望など自分の進路と向き合うきっかけとなっているので継続的に進めていただきたい。</p>
徳育	<p>○<b>豊かな心の育成・生徒指導の充実</b></p> <p>⑤ 全教育課程を通しての人権教育の充実を図る。(いじめ解消100%)</p> <p>⑥ SC、SSWと連携した教育相談体制を整備し、不登校や配慮を要する生徒の支援体制の充実を図る。(不登校傾向6名を1名以上減少)</p> <p>⑦ 「凡事徹底週間」を中心に規範意識の高揚を図る。</p> <p>⑧ 読書活動、新聞投稿(作文、詩、短歌等)の充実を図る。(図書室利用、年間25冊以上)</p>	<p>○ 人権教育の充実を図るために、道徳科や学級活動を全体計画に基づいて行った。また、毎月行う生徒アンケートの実態を手がかりに教育相談を実施し、悩み解消に努めた。いじめについては、認知後すぐにいじめ・不登校対策委員会で対応策を審議し解消に向けて対応した。SNS等をめぐる問題については、全校生徒を対象に専門家の講話で学習した。</p> <p>○ スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、家庭相談員の協力のもと支援体制を整え、不登校や特別な支援教育が必要な生徒に関わっていただいた。引き続き、保護者の思いを重視しながら個に応じた対応に努めていきたい。(現在不登校6名、昨年の不登校が解消できた生徒3名)</p> <p>○ 「自立と自律」「感謝」「貢献」をスローガンに主体的に取り組める生徒を目指し取り組んだ。自信や誇りがもてるような指導に段階を上げたい。</p> <p>○ 子ども新聞や各コンクール等で投稿した詩や標語等が多く掲載された。図書委員会を中心に読書を自ら好む生徒の育成を図っていきたい。(図書室の本の1人当たり貸出22.2冊)</p>	⑤3.0 ⑥3.2 ⑦2.9 ⑧3.3	3	<p>・SCやSSWなど学校の組織的な取組により不登校解消につながっているため、継続して充実した対応をしていただきたい。</p> <p>・自己表現力を高めることや互いを認め合う心の醸成は大変重要なので引き続き指導をお願いしたい。特にスマートフォンや携帯の所持率が高まっているので、情報モラル教育もお願いしたい。</p> <p>・「凡事徹底」については「気付き」の心を育むという一面をもっており必要な取組である。慣例的な取組になっていないかを確認し今一度所期の目的を確認しながら進めていただきたい。</p> <p>・地域で見ると子どもたちの様子を見るとあいさつや行動面で優しい心が育まれていると感じる。しかし、アンケートの結果から家での手伝いや地域とのつながりはもう少しなので、きっかけ作りも必要である。</p>
体育	<p>○<b>体力の向上と健康安全の充実</b></p> <p>⑨ 体力向上プランに基づく授業・部活動を通して、体力向上を図る。</p> <p>⑩ 体力テストのDE段階の割合10%以下を目指す。</p> <p>⑪ 安全教育、防災教育、避難訓練等の充実を図り、安全意识の高揚と危険回避能力の育成を図る。</p> <p>⑫ 健康への意識高揚を図り、健康管理能力を高める。(虫歯治療率85%以上、肥満10%以下)</p>	<p>○ 体育の授業や部活動に積極的に取り組み、一人一人の体力が向上した。生徒会を中心に体育大会や駅伝ロードレース大会などの企画運営に取り組み、新記録等も多く生まれた。また、秋季体育大会では、バレーボール、女子バスケットボール、野球、サッカー、卓球、陸上が県大会に出場した。</p> <p>○ 体力テストのD判定12名、E判定4名で、DE段階の割合は10.7%であった。1年男子のD判定が6名と多いので経験値を高め改善したい。</p> <p>○ 専門家による講話に加え、生徒会主催の野尻中学校サミットで防災について考える機会を設けた。危険回避能力については、社会科、保健の授業で野尻町の防災マップを確認しながらもしものために備える学習をした。</p> <p>○ 虫歯治療率は97.7%、肥満の割合は6.8%である。いずれも個別指導と家庭との連携を図りながら、さらに改善に努めたい。</p>	⑨3.5 ⑩3.3 ⑪3.4 ⑫3.5	3.5	<p>・防災教育の一環で行われた野尻中学校区サミットの「防災」の話し合いは大変意義あるものであった。自分の命を守る、地域に貢献することも含めて、ぜひ「命」にかかわることについては継続して育む機会を設けていただきたい。また、今後「防災」は未来になう子どもたちにとっては大変重要なので外部関係機関との連携もお願いしたい。</p> <p>・生徒アンケートより「健康・安全に気を付けている」生徒が多い一方で、「体力向上に向けた取組」では少ないことから「体力と健康」を関連付けた取組も必要だと思う。特に、虫歯の治療率は、全職員で100%を目指していただきたい。</p>
食育	<p>○<b>食育の充実</b></p> <p>⑬ 朝食摂取率93%以上を目指す。</p> <p>⑭ 給食指導や「弁当の日」の取組を充実させることで、食と健康への意識を高め、感謝の心や豊かな食習慣を育成する。</p> <p>⑮ 残食率10%以下を目指す。</p>	<p>○ 朝食摂取率は94%であった。朝食が、体や勉強にどのように影響するかを保健だより等でお知らせしたり、個別指導をしたりした。</p> <p>○ 弁当の日は、生徒に取組み方のコースを選択させ、2回実施した。命あるものをいただくことについて考える機会として、和牛農家さんを招いて交流給食を行った。また、給食委員会と栄養技師により、給食費半額補助のシステムを理解し、全国からの善意に感謝したり、地産地消について学んだりする機会を設けた。</p> <p>○ 残食率は6月0.6%、11月0.2%であった。給食だよりや保健だよりを通じて、バランスの良い食事について継続して発信したい。</p>	⑬3.2 ⑭3.4 ⑮3.4	3.6	<p>・朝食摂取率や残食率が目標値より良くなっている。朝食の必要性や「弁当の日」などの食に関することは、家庭の協力が重要と考えるので、今後も給食だよりや保健だよりによるお知らせや校長通信「自他共栄」での情報発信を継続して行うことが目標達成に結び付くと思う。</p> <p>・PTA総会、学校参観日等で朝食の摂取率の状況をお知らせし、必要性について懇談会で話題にするのもよいと思う。保護者の努力が必要であることからPTA活動で取り組むのもよいと思う。</p>
次年度の方向性についての校長所見		教師は知・徳・体・食のバランスの良い校内の仕組みづくりや具体的な実践に取り組み、生徒一人ひとりが夢や目標を見つけながら「自立と自律」「感謝」「貢献」をスローガンに学校生活を充実させることができた。次年度は、常在危機意識も高めながら、地域に貢献できる人材育成にさらに努めていきたい。			